

# きずな

No.19

令和3年  
9月発行

## [目次]

岡垣緑のまちづくりの会(岡垣町).....	1・2
犬鳴川みどりの会(宮若市).....	3・4
県庁お知らせ掲示板.....	4

編集・発行 福岡県 企画・地域振興部 市町村支援課  
 〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7  
 TEL:092(643)3072 FAX:092(643)3078

## □岡垣緑のまちづくりの会(岡垣町)

# 緑豊かな自然環境を次世代へ守り継ぐ

## ～岡垣緑のまちづくりの会(岡垣町)～

福岡県北部、福岡市と北九州市の中間に位置する岡垣町。都市部へのアクセスもよく、近年はベッドタウンとして注目を集めています。また、山と海に囲まれた緑豊かな自然環境からさまざまな恩恵を受けています。特に、孔大寺山や湯川山をはじめとする山々が良質な地下水を生み出しており、水資源が豊富。町の水道水の85%を地下水で賄っており、町内外から多くの人がおいしい水を汲みに来ます。

しかし、自然はときに、人々の生活に危険を及ぼすことがあります。近年では手入れされず放置された竹が山林や里山に侵入し、森を破壊しています。森林破壊が進むと災害が起きる危険性が高まります。

### 森の再生への一歩

平成21年に、岡垣の豊かな自然環境を次世代に守り継ぐ「岡垣緑のまちづくり会」が発足。「自分の住んでいるまちを少しでも美しくしたい」「子どもたちのため、岡垣の緑を守りたい」という思いを持った有志が立ち上がりました。

会員は、町が主催する環境保全ボランティアリーダー養成講座の修了者。講座で学んだ専門的な技術や地域の活性化促進についての知識などをいかして活躍しています。

主な活動は、放置竹林や荒廃森林を伐採し、維持・管理することですが、植樹祭や先進地の視察研修を行うなど積極的な環境保全活動に取り組んでいます。

現在は毎月2回、町有地の「寺ヶ谷ため池」と「一丁ため池」周辺の整備を行っています。寺ヶ谷ため池では、ツバキやサザンカ、山桜など、四季折々にあつた15種の木を植樹し、10年以上をかけ森を再生するために活動してきました。また、一丁ため池では、岡垣町の景勝地にするため、ピンクや白、赤など、4種の梅の木を5年間で800本植樹。今後も植樹を続け、2,000本の梅園を作る予定です。



▲伐採途上の放置竹林

## 10年の歩み

活動を始めて今年で13年を迎える「岡垣緑のまちづくりの会」。県内の環境保全に携わってきた小島俊哉(こじま としや)さんを筆頭に、会員が力を合わせて活動を続けてきましたが、その道のりは険しいものでした。藪が生い茂り、立ち入ることができなかった場所を自分たちの手で一から伐採することから始まり、整地や植樹を経て、森を作り上げました。ただ植樹をするだけでなく、その風土に適した木々を植えなければならぬため、九州各地の植生調査も行いました。



▲伐採した放置竹林は整地され、植樹できる状態へ

その結果、宮脇方式(注1)と呼ばれる混植密植の作業で広葉樹を植えることに成功。通常、森の形成に20年かかるところを10年で作ることができました。整備された場所にはふかふかの腐葉土ができ、この腐葉土が岡垣町のおいしい水を作り出します。



▲桜が咲き、水面に反射した一丁ため池の原風景

### (注1) 宮脇方式

その土地に従来から生息している種類の木を複数混ぜて密に植える。宮脇方式で植樹された木は丈夫に成長し、災害にも強いと言われています。

## 森の質を見極める人に

発足当時の会員数は28人、現在は32人のメンバーで活動しています。毎月活動はしているものの、年々会員が高齢化。若い担い手探しに苦慮しています。「同じ森を見ても、質の違いがわかるようになってほしい」と小島さんは話します。

今があるということは、誰かが築き上げてきた過去があるということ。「自分の郷土を次世代のために守る」。そんな思いを持った若い人材が今、求められています。



▲岡垣町のまちづくりに奮闘する小島さん

## 見据えるのは未来の岡垣町

最後に小島さんは会の取組について「縦の糸は時間軸、横の糸一本一本はその日の作業、織りなす図柄は横の糸(樹種)で決まります。時間をかけて日々の作業を繰り返すことで、樹木は3次元に立体化する。私たちは、時間軸の30年、100年先を想像しながら作業していますので、辛さが無い、むしろ楽しんでいきます」と話してくれました。

取材当日は、日が照り付ける暑い日。過酷な環境下で伐採作業が行われていましたが、生い茂る草木の間で、会員のみなさんの笑顔と汗が輝いていました。今後も、緑豊かな岡垣町の自然環境を次世代へ守り継ぐまちづくりに期待が高まります。



▲急傾斜地でも、作業の手は止まらない

## 行政から住民へまちづくりの絆を

### ～犬鳴川みどりの会(宮若市)～

福岡県中央部筑豊地域にある宮若市。平成18年に宮田町と若宮町が合併し誕生しました。自動車関連企業の工場があり、県内有数の工業都市として知られるほか、市の中心部を流れる犬鳴川や笠置山などの広大な山々、さらには溪谷美を誇る千石峡など豊かな自然に囲まれ、四季の変化を楽しむことができます。また、かつては日本の主要な石炭の産地であった宮若市。筑豊炭田の一つであった「貝島炭坑」には多くの労働者が集まり、戦前戦後の日本の近代化を支えました。

しかし、石炭産業が衰退し炭坑が閉山すると、人口流出が進みました。急激な人口流出は、高齢化・過疎化へと繋がってしまい、地域の衰退に拍車をかけることとなってしまいました。

### 住民の声を届けたい

こうした背景の中、少しでも自分たちの住むまちを良くしたい、誇りを持ちたいという思いが住民たちの中で芽生え始めました。しかし、住民と行政の繋がりは少なく、行政主導のまちづくりが先行。住民たちは中々その声を届けることができませんでした。その状況が変わるきっかけとなったのが「犬鳴川河川公園」でした。



▲住民の声が形となった「犬鳴川河川公園」

### 住民と行政、それぞれの思い

平成6年に、住民たちは自ら「まちづくり委員会」を設立。自治会長を中心に、住民のみで構成された委員会は「緑の芝生を自由に散歩したい」「犬鳴川の土手に桜並木を作りたい」などの要望を行政に届けました。また、行政側もまちづくりの活性化を図るため「住民と一緒に汗をかくことがしたい」「住民の憩いの場を作りたい」という思いを抱いていました。

そうした経緯から、両者の思いが合致。平成8年に旧宮田町の町制70周年を記念して企画された犬鳴川河川公園事業は、住民の声を反映させて計画されることとなり、住民の思いは現実へと変わりました。

この活動の中心となったのが「犬鳴川みどりの会」でした。発足当時の会員数は384人。住民が一丸となり、自分たちの住むまちを良くするため、行政と一緒に頑張って公園建設を行い平成13年、ついに完成しました。

### 愛される場所へ

完成した公園は全長850mと長く、遊歩道には一切障害物がありません。遊歩道の脇には、湧水を利用した小川や休憩ができる東屋、ふかふかのじゅうたんのような芝生などが整備されました。また、公園に植えられた桜や1万本のツツジなどの花々が四季を彩り、人々の目を楽しませてくれます。夜も安心して利用できるように照明灯を設置。小さな子どもから高齢者まで、多くの人々が楽しむことができる場所となりました。



▲鮮やかな花々は訪れる人たち楽しませてくれます

## 広がる交流の輪

公園完成後、「犬鳴川みどりの会」は、主に公園の維持管理やイベントの企画運営などを行っています。月1回の清掃活動には、多数の企業も参加。多い時で100人以上が参加するほどの活動になりました。また、地元の高校生も奉仕活動を行うなど、幅広い世代との交流も盛んに行われるようになりました。さらに、春は桜まつり、秋には芋煮会が行われ、公園は多くの参加者でいっそう賑わいます。

こうした活動は周囲にも認められ、数々の賞を受賞。平成27年には長年にわたり社会に奉仕する活動に従事したとして、緑綬褒章を受章しました。



▲会員お手製のエコキャンドルが灯る桜まつり

## 自慢のふるさと

会の活動をけん引してきた会長の来島仁左門鴻司(きじま にぎえもんこうじ)さんは「山地、田園、河川のある風景で、人々の小さな力の積み重ねで素晴らしい公園になった事、これを継続していく事の重要さをみなさんに知って欲しい」と話します。

また、現会員で公園建設当時は行政職員として関わった入江修(いりえ おさむ)さんは「公園の建設は、住民と行政のコミュニティづくりでもあった。みんなが諦めないで進歩してきたからこそ、今の形がある」と当時を振り返ります。

会長への取材の中で、会員にとって宮若市はどんな場所か尋ねると「山紫水明の自慢のふるさと」と答えてくれました。次は、整備されていない場所に着手し、四季を通じて楽しめる公園になるよう工夫を重ねていくことを新たな目標に掲げるなど、さらなるまちづくりに意欲を見せています。

## 協働が築く未来のまちづくり

住民のアイデアがたくさん詰まった犬鳴川河川公園。この公園建設事業をきっかけに、住民と行政の間に信頼関係が生まれ、企業との連帯感も育まれました。住民、行政、企業による協働のまちづくりは人づくりへと波及し、未来の宮若市のまちづくりを支える礎となっています。



▲多世代交流のコミュニティの場として活動の幅を広げます

# 県庁お知らせ掲示板

### ■ ホームページ「ふくおか生涯学習ひろば」をご利用ください。

「ふくおか生涯学習ひろば」では、リカレント教育(学び直し)やスキルアップ、大学の公開講座、趣味・教養などの学びの情報やボランティア活動情報など、県内の生涯学習に関する幅広い情報を発信しています。学びのきっかけ探しや活動の情報発信に、ぜひ活用ください！



ふくおか 生涯学習

QRコードからも読み取れます！



NPO・ボランティアセンター 092-631-4416

### ■ ふくおか健康ポイントアプリ

県が配信している「ふくおか健康ポイントアプリ」は、歩数や健(検)診の受診の記録などによりポイントが貯まる、健康アプリです。貯まったポイントを使って、特典協力店でサービスが受けられるクーポンを発行することができます。

また、地域のコミュニティなどでグループを作ることができ、歩数ランキングが表示されます。アプリを使って、楽しみながら健康づくりに取り組みましょう！



健康増進課 092-643-3269

ダウンロードはこちらから！



ふくおか健康ポイントアプリ